

4. 新聞等に掲載された活動

○解剖学第二

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
分部哲秋・講師	「島原の乱」開封 決戦場・原城跡から大量人骨	読売新聞	2006年 11月10日	「島原の乱」の決戦場となった原城跡から出土した人骨について、確認された人骨数や埋葬の状態等の形質人類学的な調査・分析結果の一部が掲載された。

○生理学第一

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
相川忠臣・教授	オランダ語文書「本木蘭文」解説に着手	長崎新聞	2006年 1月13日	長崎大学と長崎歴史文化博物館はオランダ国立ライデン大学と共同で「本木蘭文」解説プロジェクトに着手、阿蘭陀通詞による「長崎蘭学」を系統的に検証し、その成果を長崎歴博で企画展示するなど学術・観光振興にも結び付けていく。
相川忠臣・教授	ポンペから150年	長崎新聞	2006年 10月27日	「出島の医学通史」
相川忠臣・教授	ポンペから150年	長崎新聞	2006年 11月8日	「種痘の父モーニッケ」
相川忠臣・教授	ポンペから150年	長崎新聞	2006年 11月22日	「近代西洋医学の父ポンペ 上」
相川忠臣・教授	ポンペから150年	長崎新聞	2006年 12月13日	「近代西洋医学の父ポンペ 下」
相川忠臣・教授	ポンペから150年	長崎新聞	2006年 12月27日	「松本良順」

○生理学第二

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
篠原一之・教授	「こども大変時代」 ほめられると脳活性化	産経新聞	2006年 3月20日	言葉によらない母子コミュニケーションをテーマに母子間のおいや音、肌の接触などの大切さを述べる
篠原一之・教授	変化する環境の中で何が 「発達」に促すか互いの 匂いで安らぐ母と子	産経新聞	2006年 4月13日	言葉によらない母子コミュニケーションをテーマに母子間のおいや音、肌の接触などの大切さを述べる。
篠原一之・教授	最新の研究：赤ちゃんの 匂いの効果とは？	NBC 報道センター	2006年 7月13日	「赤ちゃんの匂いの効果とは？」を テーマに、乳幼児期における親子間 の匂いの効果を取材
篠原一之・教授	夫婦で子育てがキーワ ード孤立しない楽しいお腹 の赤ちゃんに優しく語り かける事が大切	長崎新聞	2006年 8月9日	母と子のコミュニケーションのあり 方を中心に、育児をめぐる問題につ いて取材
篠原一之・教授	ひきだせ「脳力」「音読」 フォーラムを前に篠原一 之・長崎大学教授に聞く 脳への刺激に有効交流 ツールにも活用を	長崎新聞	2006年 8月27日	脳の活性化について音読の効果を取 材
篠原一之・教授	「赤ちゃんは何を伝えよ うとしているの？」大切 な22のアドバイス	産経新聞	2006年 8月30日	著書「赤ちゃんは何を伝えようとし ているの？」の紹介 赤ちゃんがな ぜ泣くのか分からない、といった育 児の悩みを抱える母親にたいして、 大切な22のアドバイスを示してく れる
篠原一之・教授	長崎大 ナノテク、創薬 など10件重点研究テ ーマを決定	長崎新聞	2006年 9月24日	長崎大は世界的な研究拠点化を目指 す重点研究課題10件を決定した。 以上の課題のうち「子供の心を育む コミュニケーション学創出」が含ま れる
篠原一之・教授	フェロモンってほんとに あるの？ 遺伝子の恋	NHK 解体新Show	2006年 10月30日	知らないうちに異性をひきつける という不思議な物質 フェロモン 最 近スイスの研究グループが人のフェ ロモンの一種を発見し話題を呼んで いる。それは汗に含まれる匂いの元 「MHC」MHCは他人と自分との遺伝 的な隔たりを示す物質。実験の結果 ヒトはできるだけ自分とは異なる タイプのMHCを持つ異性を伴侶に選 ぶ傾向にある事が判明。

○薬理学第一

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
丹羽正美・教授	新薬開発期待の新装置	NBC 報道センター	2006年 9月21日	創薬支援ツールとしての血液脳関門のモデル化キットの社会への提供
丹羽正美・教授	薬物の脳への作用判定	日本経済新聞	2006年 10月20日	大学発ベンチャーの研究開発
中川慎介・助手	医薬品物質・脳への効果 検定キット	日経産業新聞	2006年 10月24日	知的財産の社会への還元

○薬理学第二

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
上園保仁・助教授	飲酒運転に関する取材	長崎新聞	2006年 9月21日	飲酒運転及びアルコール作用機序に関する取材を受けた。(社会面)

○内科学第一

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
江口勝美・教授	第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会／第15回国際リウマチシンポジウムの開催にあたって	MEDICAMENT NEWS	2006年 3月15日	第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会／第15回国際リウマチシンポジウムの開催について
江口勝美・教授	関節リウマチの最新治療とMMP-3の意義	Medical Tribune	2006年 4月6日	RAの早期診断、予後予測因子あるいは治療モニタリング指標としてのMMP-3についての座談会
江口勝美・教授	関節リウマチの治し方とは？	西日本新聞	2006年 4月15日	関節リウマチの寛解を目指し、早期治療を行うことが重要である。
本村政勝・講師	神経筋の接合部形成必須タンパク質発見	科学新聞	2006年 6月30日	今回の発見で、先天性の筋無力症や自己免疫異常による重症筋無力症の病態解明や診断法、さらには新たな治療法の可能性が示された。
井田弘明・講師	第50回日本リウマチ学会	流-ながれ-	2006年 7月	日本リウマチ友の会の会員へ、第50回日本リウマチ学会について報告した。
江口勝美・教授	抗CCP抗体の意義について教えて下さい	リウマチクリニック	2006年 8月	抗CCP抗体は、RAの早期診断と臨床経過、特に関節破壊進行の予測に有用と考えられる。
本村政勝・講師	1分間人間ドック：重症筋無力症	日本経済新聞	2006年 9月3日	重症筋無力症の症状と病態をわかりやすく解説し、その診断と治療は神経内科で行っていることを説明した。

○内科学第二

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
河野 茂・教授	できたてGoPan相談室 冬場の急病	KTN	2006年 1月10日	肺炎、気管支炎の主症状について説明した。
河野 茂・教授	せき 要注意	熊本日日新聞	2006年 1月25日	呼吸器疾患の主症状である「咳」について概説した。
河野 茂・教授	慢性の咳に気を付けて	山陽新聞	2006年 1月28日	慢性咳嗽の原因について概説した。
河野 茂・教授	せき 原因別に正しく診療	河北新聞	2006年 1月30日	咳嗽の原因疾患について概説した。
河野 茂・教授	慢性のせき 気を付けて	福島民報	2006年 1月30日	慢性咳嗽の原因について概説した。
河野 茂・教授	慢性のせきに注意	岐阜新聞	2006年 1月30日	慢性咳嗽の原因について概説した。
河野 茂・教授	慢性のせき 気を付けて	山梨日日新聞	2006年 2月3日	慢性咳嗽の原因について概説した。
河野 茂・教授	せき 原因さまざまー適切診療へガイドライン	長崎新聞	2006年 2月6日	咳嗽に関するガイドラインについて概説した。
河野 茂・教授	できたてGoPan相談室 尿失禁	KTN	2006年 2月14日	尿失禁の原因と治療法について概説した。
河野 茂・教授	慢性のせきに気を付けて	福島民友	2006年 3月6日	慢性咳嗽の原因について概説した。
河野 茂・教授	できたてGoPan相談室 骨粗しょう症	KTN	2006年 3月7日	骨粗鬆症の原因と治療法について概説した。
河野 茂・教授	慢性のせきにご注意	佐賀新聞	2006年 3月14日	慢性咳嗽の原因について概説した。
池田聡司・助手	できたてGoPan 血圧	KTN	2006年 5月23日	高血圧の定義や家庭血圧の有用性などを概説した。
河野 茂・教授	黄色ブドウ球菌 長崎大、感染症治療への新技術	日経産業新聞	2006年 5月30日	黄色ブドウ球菌感染症の新治療に関して概説した。
池田聡司・助手	できたてGoPan 睡眠時無呼吸	KTN	2006年 10月4日	睡眠の重要性や睡眠時無呼吸の体に及ぼす悪影響などについて概説した。
河野 茂・教授	離島の医師確保対策ー長崎大の取り組み	日本医事新報	2006年 10月7日	僻地医療の現状と当大学の取り組みについて概説した。
関 雅文・助手	できたてGoPan相談室 インフルエンザ	KTN	2006年 12月1日	今年流行が予想されるインフルエンザに関して、ワクチンをはじめとする対策方法を広く一般の方に解説した。
河野 茂・教授	カリニ肺炎防ぐたんぱく質特定に対するコメント	朝日新聞 夕刊	2006年 12月12日	日和見感染症であるカリニ肺炎の基礎的研究に対し評価した。

○内科学第三

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
矢野捷介・教授	生活習慣の改善による心臓血管病の予防	朝日新聞	2006年 1月1日	心臓血管病予防のための生活習慣改善を啓蒙する内容である。
小出優史・講師	急性冠症候群という病名をご存じですか？	西日本新聞	2006年 1月1日	冠動脈疾患の病因・病態を述べ予防の必要性を啓蒙する内容である。
瀬戸信二・助教授	高齢者～超高齢者でも高血圧治療は必要か？	西日本新聞	2006年 6月3日	高血圧に伴う合併症が多いことが明らかでありその治療の必要性を述べた。
矢野捷介・教授	死のリスク高める生活習慣病	長崎新聞	2006年 9月28日	動脈硬化による心臓血管死を予防するための社会的啓蒙を推進する内容である。
矢野捷介・教授	複合型の生活習慣病，メタボリックシンドロームをご存知ですか!?	朝日新聞	2006年 12月18日	生活習慣病の原因となるメタボリックシンドロームについて解説し，その予防法に関する啓蒙を行うことを趣旨とした。

○外科学第二

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
前田茂人・講師	ゴメリ医科大学長崎での研修	KTN テレビ放送	2006年 8月11日	チェルノブイリ原発事故後甲状腺癌となり甲状腺手術を受けたゴメリ医科大学長崎に，甲状腺外科外来や甲状腺手術見学をしてもらい，被爆地長崎での医療の現状を伝えた。
兼松隆之・教授	第2回キッズ外科体験セミナー	NIB テレビ放送	2006年 10月23日	離島の児童を対象とした外科医体験セミナーにつき紹介した。

○皮膚科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
佐藤伸一・教授	強皮症	長崎県保険医協会健康テレホンサービス	2006年 1月5日	健康テレホンサービスで一般市民に向けて強皮症を解説
佐藤伸一・教授	金属とアレルギー	KBCアレルギー談話室	2006年 5月21日	金属によるアレルギーについて易しく解説
佐藤伸一・教授	アトピー性皮膚炎の日常臨床とエビデンスー医師の思いと患者の思いー	Medical Tribune	2006年 6月8日	早期からの抗ヒスタミン薬併用の有用性や、抗ヒスタミン薬の抗炎症作用を裏付けるエビデンスについて述べた
竹中 基・講師	ベーチェット病の皮膚症状	「ベーチェット病友の会」医療相談会	2006年 6月10日	患者や家族に向けて講演
竹中 基・講師	水虫Q&A	KTN できたてGopan	2006年 8月29日	水虫について易しく解説
佐藤伸一・教授	強皮症・皮膚筋炎について	長崎市地域保健課	2006年 9月14日	難病患者地域支援対策推進事業(医療相談事業)として患者を対象に講演と医療相談
佐藤伸一・教授	あなたの皮膚は大丈夫？～アレルギーから皮膚ガンまで～	KTN 週刊健康マガジン	2006年 9月29日	今年の「ひふの日」のテーマについて解説
佐藤伸一・教授	健康:あなたの皮膚は大丈夫?大事に至らないため知識を	長崎新聞	2006年 10月16日	今年の「ひふの日」のテーマについて解説
佐藤伸一・教授	抗核抗体をどう読むか	ラジオNikkei マルホ皮膚科セミナー	2006年 10月19日	第105回日本皮膚科学会総会教育講演について解説
佐藤伸一・教授	あなたの皮膚は大丈夫？ーアレルギーから皮膚がんまでー	第18回 ひふの日講演会 &相談会	2006年 10月21日	第18回ひふの日講演会&相談会で、一般市民を対象に講演
竹中 基・講師	食物アレルギーについて	NCC ままたまご	2006年 11月15日	食物アレルギーについて、特に幼児の母親を対象に易しく解説
佐藤伸一・教授	かゆみとアレルギー	KBCアレルギー談話室	2006年 11月26日	かゆみについて易しく解説

○泌尿器科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
野口 満・助手	ホスピタルレポート	びびっど	2006年1月	21世紀の大学病院にふさわしい高度な医療の提供を目指す
野口 満・助手	ED：年だから仕方ない…わけではない!!	日刊スポーツ	2006年1月30日	
野俣浩一郎・助教授	間質性膀胱炎	健康テレホンサービス	2006年2月4・5・11・12・18・19・25・26日	モニター通信Q & A(長崎県保険医協会)
酒井英樹・講師	高齢者の排尿障害	Medicament News	2006年9月15日	特集：高齢者診療の話題
野口 満・助手	排尿障害と薬物療法	http://www.taiho.co.jp/medical/urology/	2006年12月8日	日医生涯教育協力講座 インターネット生涯教育講座「高齢者の排尿障害」

○耳鼻咽喉科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
高崎賢治・講師	花粉症	KTNスーパーニュース	2006年2月5日	花粉症についての啓蒙
高橋晴雄・教授	滲出性中耳炎	テレビ医学番組 ケアネットTV 「話題の医学」	2006年12月2日	小児滲出性中耳炎の病因, 疫学, 治療などを解説し, 一般市民への啓蒙を行った。
隈上秀高・助教授	聴力障害	佐賀新聞	2006年12月4日	難聴者のための講演会

○放射線医学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
伊東昌子・助教授	骨の健康診断に新指標	日本経済新聞	2006年4月24日	骨粗鬆症に関する社会的啓蒙
伊東昌子・助教授	運動がエストロゲン欠乏による骨密度低下を抑制	Medical Tribune	2006年8月24日	骨粗鬆症に関する社会的啓蒙

○産科婦人科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
増崎英明・教授	「年間企画」生きる, 第4部生命の誕生⑤	長崎新聞	2006年12月17日	生命の誕生から, 「命」「生きる」ことの意味, 大切さについて概説した。

○麻酔学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
澄川耕二・教授	ママ医師復帰へ プログラム 長崎大病院全国初の試み	朝日新聞ほか	2006年 10月12日	ママ医師復帰を支援

○脳神経外科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
永田 泉・教授	脳梗塞二次予防における 抗血小板剤クロピドグレルの位置づけを探る	Medical Tribune (特別企画・第 二部)	2006年 7月13日	脳梗塞の高リスク患者を対象とした MATCH試験について

○形成外科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
秋田定伯・助手	創傷治癒・難治性潰瘍	創傷治癒セン ター (web site)	2006年 1月	創傷治癒に関する日本最大のwebサ イトの編集員
秋田定伯・助手	角尾学術賞 関連記事	長崎新聞	2006年 6月1日	第23回角尾学術賞取材記事。創傷 治癒の新技術を開発
秋田定伯・助手	創傷治癒における再建・ 再生の新技術開拓	西日本新聞	2006年 6月20日	創傷治癒の新技術を開拓と世界戦略

○分子疫学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
中込 治・教授	重症ロタウイルス下痢症 に朗報—世界で新規ワク チンの認可進む—	Medical Tribune	2006年 8月17日	新規ロタウイルスワクチンの世界で の位置づけについて解説した。
中込 治・教授	ロタウイルス新ワクチン 開発	教育医事新聞	2006年 11月26日	新たに開発されたロタウイルスの経 口投与型弱毒性生ワクチンについて 解説した。
中込 治・教授	「熱帯医学修士課程」設 置—長崎大学	教育医事新聞	2006年 11月26日	日本初の熱帯医学修士課程の設置に ついて説明した。

○公衆衛生学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
高村 昇・助教授	チェルノブイリ事故から 20年	長崎新聞	2006年 4月25日	成果挙げる長崎大学の支援
高村 昇・助教授	広島から、長崎から	信濃毎日新聞	2006年 6月2日	チェルノブイリへの支援について
高村 昇・助教授	チェルノブイリ原発事故 20年	西日本新聞	2006年 8月6日	ゴメリ医科大学学生との交流会
高村 昇・助教授	チェルノブイリ被曝4医 学生訪問	読売新聞	2006年 8月11日	ゴメリ医科大学学生の長崎訪問

○腫瘍・診断病理学研究分野（原研病理）

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
関根一郎・教授	「被爆60周年記念誌」発行	長崎新聞	2006年 3月28日	証言・写真資料で被災状況を伝える
関根一郎・教授	「長崎医科大と原爆」発行	毎日新聞	2006年 4月14日	60周年記念講演などを記録
関根一郎・教授	原子爆弾後障害研究会 「組織バンク」構築へ	読賣新聞	2006年 6月5日	長崎県内の各病院にて保管されている生体試料を収集し、一括保管する「組織バンク」構築の紹介。この内長崎被爆者分を選別し研究に利用する。
関根一郎・教授	被爆者の生体試料を収集 「組織バンク」構築へ	長崎新聞	2006年 6月15日	長崎県内の各病院にて保管されている生体試料を収集し、一括保管する「組織バンク」構築の紹介。この内長崎被爆者分を選別し研究に利用する。
関根一郎・教授 Meirmanov Serik・ 助手	カザフスタンに原爆犠牲 者慰霊祭を生中継	読賣新聞	2006年 8月10日	長崎大医学部で開かれた原爆犠牲者慰霊祭の様子が、インターネットを使って同大と医療協力関係を結ぶカザフスタン・セミパラチンスク診断センターにて生中継され、ロシア語による同時通訳を行った。
関根一郎・教授 Meirmanov Serik・ 助手	核終結式典をネットで中 継	毎日新聞	2006年 8月29日	セミパラチンスク核実験終結15周年式典の様子が長崎大原爆後障害医療研究施設にインターネットで生中継された。両国の出席者が核兵器廃絶に向け連携していくと誓い合った。
関根一郎・教授 Meirmanov Serik・ 助手	核廃絶に向け連携うたう ーセミパラチンスク核実 験終結15周年ー ネット で結び長崎でも式典	朝日新聞	2006年 8月30日	式典の様子が、長崎大原爆後障害医療研究施設にインターネットで生中継された。核実験被爆者が、日本人医師のセミパラチンスクでの医療支援や共同研究に感謝。被爆者医療研究や核兵器廃絶に向けて協力していくことを確認した。
関根一郎・教授 Meirmanov Serik・ 助手	カザフスタン核実験場閉 鎖15周年ー長大医学部 ネットで式典参加	西日本新聞	2006年 8月30日	セミパラチンスク診断センターと長崎大医学部を、ネットで結んだ式典が行われた。核兵器廃絶と平和を願う、高校生1万人署名活動に取り組んでいる長崎の高校生が活動を紹介。両国の出席者が核兵器廃絶への思いを新たにした。
関根一郎・教授 Meirmanov Serik・ 助手	セミパラチンスク被ばく 者らと式典ー長大医学部 がネット中継	長崎新聞	2006年 8月30日	セミパラチンスク核実験終結15周年式典の様子が長崎大原爆後障害医療研究施設にインターネットで生中継された。被爆者医療研究や核兵器廃絶に向けて協力していくことを確認した。

○放射線疫学研究分野（原研疫学）

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
柴田義貞・教授	第49回日本放射線影響学会 チェルノブイリ原発事故から20年－環境、健康被害の実態明らかに	Medical Tribune	2006年 10月12日	「チェルノブイリ原発事故による一般住民の放射線被曝および放射線障害の態様は、原爆被爆者の場合と異なる」と述べ、事故後の身体および精神的影響について詳述した。

○人類遺伝学研究分野（原研遺伝）

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
新川詔夫・教授 吉浦孝一郎・助教授	耳垢型決定遺伝子 ABCC11	読売新聞 朝日新聞 毎日新聞 日本経済新聞 USA today その他多数の国内外の新聞・インターネット・テレビ	2006年 1月30日	耳垢型を決定している遺伝子ABCC11と突きとめ、乾型が変異型であることを発表し、反響を得た。
新川詔夫・教授	スパークサイエンス・ハイスクール教育への貢献	読売新聞 毎日新聞	2006年 12月13日	JSTのスパークサイエンス・ハイスクール事業へ貢献し、コンソーシアム作りに貢献

○分子診断学研究分野（原研細胞）

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	白血病関連の医学書 ロシア語版HP初掲載	長崎新聞	2006年 1月17日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシ医学生 長崎に引き研修へ	西日本新聞	2006年 3月9日	国際ヒバクシャ医療
	WHOガイドライン 日本語版をネット公開へ	毎日新聞	2006年 3月11日	テロ・災害対策
山下俊一・教授	インタビュー 汚染地を診る	信濃毎日新聞	2006年 3月30日	テロ・災害対策
山下俊一・教授	長崎大とベラルーシの医科大 ネット使い遠隔講義	長崎新聞	2006年 4月22日	国際放射線保健
山下俊一・教授	チェルノブイリ事故から20年 国境越える健康影響	長崎新聞	2006年 4月25日	国際放射線保健
山下俊一・教授	チェルノブイリ事故から20年 成果挙げる長崎の支援	長崎新聞	2006年 4月25日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ 医学生4人 28日来崎	長崎新聞	2006年 7月5日	国際ヒバクシャ医療
	ヒバクシャ医療協力会 10日外務大臣表彰	長崎新聞	2006年 7月8日	国際ヒバクシャ医療

氏名・職	記 事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	チェルノブイリ原発 周辺国などの研修医師団が知事表敬	長崎新聞	2006年 7月26日	国際ヒバクシャ医療
	ロシア, ベラルーシなどの医師6人 ヒバクシャ医療を学ぶ	西日本新聞	2006年 7月26日	国際ヒバクシャ医療
	長崎大とベラルーシ医科大 学術交流協定を再締結	長崎新聞	2006年 7月26日	国際ヒバクシャ医療
	長崎大 ポストCOEに応募へ	長崎新聞	2006年 7月27日	放射線医療科学国際コンソーシアム
	長崎大 放射線医療で国際シンポ	長崎新聞	2006年 7月27日	放射線医療科学国際コンソーシアム
	「国際コンソーシアム」長崎でシンポ	毎日新聞	2006年 7月27日	放射線医療科学国際コンソーシアム
	被ばく者医療シンポ開幕	西日本新聞	2006年 7月27日	放射線医療科学国際コンソーシアム
	チェルノブイリ事故 被ばく医科大生4人来崎	長崎新聞	2006年 7月30日	国際ヒバクシャ医療
	ゴメリ医科大生インタビュー	長崎新聞	2006年 8月3日	国際ヒバクシャ医療
	ヒバクシャ医療国際協力会など 座談会で訴える声	長崎新聞	2006年 8月3日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ原発事故20周年 甲状腺がん医学書出版	長崎新聞	2006年 8月4日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシ医学生4人 長崎に学ぶ	読売新聞	2006年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ原発事故20年 被ばく医学生訴え	西日本新聞	2006年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	ゴメリ医科大生と市民 原発事故など意見交換	長崎新聞	2006年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	旧ソ連原発事故 被ばく医大生 長崎入り	毎日新聞	2006年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシ医科大生 交流会	日本経済新聞	2006年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	グビロが丘から4 ベラルーシ医大生「恵の丘」を訪問	西日本新聞	2006年 8月8日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	グビロが丘から5 被爆61年 長崎大医学部	西日本新聞	2006年 8月9日	国際放射線保健
山下俊一・教授	WHOの機構改革に危ぐ	長崎新聞	2006年 8月9日	国際放射線保健

氏名・職	記 事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	チェルノブイリで被曝した医大生「教訓は風化しない」	朝日新聞	2006年 8月10日	国際ヒバクシャ医療
	平和祈念式典 チェルノブイリ被ばく学生参列	毎日新聞	2006年 8月10日	国際ヒバクシャ医療
	浦上天主堂追悼ミサ ベラルーシの神父も参加	西日本新聞	2006年 8月10日	国際文化交流
	ベラルーシ神父も参加 たいまつ行列に2500人	西日本新聞	2006年 8月10日	国際文化交流
	浦上天主堂で早朝ミサ ベラルーシ神父も参加	長崎新聞	2006年 8月10日	国際文化交流
	爆心の丘に鎮魂の光 たいまつ行列 ベラルーシからザワルニユク・ウラジスラウ神父も出席	長崎新聞	2006年 8月10日	国際文化交流
	犠牲者追悼ミサ、浦上天主堂で開かれる ベラルーシからウルディスラウ・ジャバルニユク主任神父も参加。	読売新聞	2006年 8月10日	国際文化交流
	海を超えてナガサキ思い一つ チェルノブイリ被曝4医学生訪問	読売新聞(夕刊)	2006年 8月11日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシから医学生 松本市でです市民と語る会	市民タイムス	2006年 8月11日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシ医大生 夢語る	信濃毎日新聞	2006年 8月13日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	長崎大とベルリン日独センター ドイツで医療研究シンポ	長崎新聞	2006年 9月1日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	チェルノブイリ被災者支援へ慈善販売会 ジュネーブの邦人グループ	読売新聞	2006年 11月25日	チェルノブイリ支援
山下俊一・教授	非核平和外交の要に	長崎新聞	2006年 12月24日	国際ヒバクシャ医療

○分子治療学研究分野（原研内科）

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	長崎大と放医研が協定放射線分野で包括協力	長崎新聞	2006年 1月25日	国内の緊急被ばく医療、国際的な緊急被ばく医療の教育ネットワークの構築の共同開発を検討している旨の発表。
朝長万左男・教授	大学院医歯薬学総合研究科長就任	長崎新聞, 朝日新聞, 読売新聞	2006年 3月9日	生命医療系分野
塚崎邦弘・助教授	チェルノブイリ事故から20年 長崎大とベラルーシの医科大 ネット使い遠隔講義(被ばく者医療テーマに)	NHK 長崎放送局 20:45 ニュース	2006年 4月21日 20:45	国際ヒバクシャ医療：ロシア語の通訳を介して「白血病治療の最新知見」について講義した。
塚崎邦弘・助教授	チェルノブイリ事故から20年 長崎大とベラルーシの医科大 ネット使い遠隔講義(被ばく者医療テーマに)	長崎新聞 毎日新聞	2006年 4月22日	国際ヒバクシャ医療：ロシア語の通訳を介して「白血病治療の最新知見」について講義した。
	平和宣言文起草委員会が初会合 NPT体制弱体化など指摘	長崎新聞 読売新聞	2006年 5月21日	原爆後障害医療 血液内科学
朝長万左男・教授	核兵器をすて去る人間としての心を取り戻すことを	NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘 パンフレット	2006年 6月	原爆後障害医療
	長崎大学, ベラルーシ医科大学 学術交流調印式	NHK 長崎放送局 「もってこい長崎」 NHK 長崎放送局 「おはよう日本」 NBC 「報道センターNBC」	2006年 7月25日 2006年 7月26日	学術交流
朝長万左男・教授	長崎大 COE 放射線医療科学国際コンソーシアムシンポジウム	NHK 長崎放送局 「もってこい長崎」 NBC 「報道センターNBC」	2006年 7月26日	長崎大 COE 放射線医療科学国際コンソーシアム活動概況を報告した。被ばくでがんのリスクが高まることを解明し、各機関連携の成果報告を行った。
朝長万左男・教授	長崎大 放射線医療で国際シンポ ベラルーシ医科大学長 継続支援を訴え	長崎新聞	2006年 7月27日	長崎大 COE 放射線医療科学国際コンソーシアム活動概況を報告した。
朝長万左男・教授	被ばく者医療シンポ開幕 9カ国129人参加 研究成果を報告 長大 5年間の事業総括	西日本新聞	2006年 7月27日	長崎大 COE 放射線医療科学国際コンソーシアム活動概況を報告した。

氏名・職	記 事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
朝長万左男・教授	長崎大 ポストCOEに 応募へ 放射線医療科学 国際コンソーシアム 齋 藤学長 5年間の実績強 調	長崎新聞	2006年 7月27日	長崎大 COE 放射線医療科学国際 コンソーシアム活動概況を報告し た。
朝長万左男・教授	特集「原爆医療」につい て	NBC 「報道センター NBC」	2006年 8月2日	原爆後障害医療：被爆者の白血病、 MDSについて解説し、被爆者医療 研究継続の重要性を伝えた。
朝長万左男・教授	グビロが丘から 被爆 61年長崎大医学部 ② DNA 父子つないだ被 爆者医療	西日本新聞	2006年 8月6日	原爆後障害医療：被爆者の白血病、 MDSについて解説し、被爆者医療 研究継続の重要性を伝えた。
朝長万左男・教授	NAGASAKI1945 アンゼ ラスの鐘上映会(平戸・ 帯広)	NHK 長崎放送局 「もってこい長 崎」	2006年 8月9日	原爆後障害医療
	グビロが丘から 被爆 61年長崎大医学部 ③ 役割「次への一歩を踏み 出す」	西日本新聞	2006年 8月9日	原爆後障害医療
	21-23地球市民集会ナガ サキ	広報ながさき 10月号	2006年 10月	原爆後障害医療
	地球市民集会ナガサキ プレ集会 核廃絶へ英知 結集を	KTN スーパー ニュース NIB 20:45 スポットニュース NHK 長崎放送局 20:50ニュース	2006年 10月1日	原爆後障害医療
	地球市民集会ナガサキ プレ集会 核廃絶へ英知 結集を	長崎新聞 毎日新聞 読売新聞	2006年 10月2日	原爆後障害医療
岩永正子・助手	国連軍縮フェローシップ 被爆者から体験談 30 カ国35人核兵器の悲惨 さ学ぶ	長崎新聞	2006年 10月3日	原爆後障害医療
岩永正子・助手	長崎原爆で発症1.5倍に 血液がんの一種で分析	徳島新聞 佐賀新聞 京都新聞 岩手日報 河北新聞 神戸新聞	2006年 10月6日	原爆後障害医療
	長崎平和推進専門会議	NHK長崎放送局 20:45ニュース	2005年 10月20日	原爆後障害医療
	長崎大、放影研、放射線 研究で協定。人材交流な どを推進	長崎新聞 毎日新聞	2006年 11月11日	原爆後障害医療
	長崎大、放影研、放射線 研究で協定。人材交流な どを推進	NHK 長崎放送局	2006年 11月11日	原爆後障害医療

○国際放射線保健部門（原研国際）

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	白血病関連の医学書 ロシア語版HP初掲載	長崎新聞	2006年 1月17日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシ医学生 長崎に招き研修へ	西日本新聞	2006年 3月9日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ事故から 20年 成果挙げる長崎 の支援	長崎新聞	2006年 4月25日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ 医学生 4人 28日来崎	長崎新聞	2006年 7月5日	国際ヒバクシャ医療
	ヒバクシャ医療協力会 10日外務大臣表彰	長崎新聞	2006年 7月8日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ原発 周 辺国などの研修医師団が 知事表敬	長崎新聞	2006年 7月26日	国際ヒバクシャ医療
	ロシア、ベラルーシなど の医師6人 ヒバクシャ 医療を学ぶ	西日本新聞	2006年 7月26日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ事故 被 ばく医科大生4人来崎	長崎新聞	2006年 7月30日	国際ヒバクシャ医療
	ゴメリ医科大生インタ ビュー	長崎新聞	2006年 8月3日	国際ヒバクシャ医療
	ヒバクシャ医療国際協力 会など 座談会で訴える 声	長崎新聞	2006年 8月3日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ原発事故 20周年 甲状腺がん医 学書出版	長崎新聞	2006年 8月4日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシ医学生4人 長崎に学ぶ	読売新聞	2006年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ原発事故 20年 被ばく医学生訴 え	西日本新聞	2006年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	ゴメリ医科大生と市民 原発事故など意見交換	長崎新聞	2006年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	旧ソ連原発事故被ばく医 大生 長崎入り	毎日新聞	2006年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシ医科大生 交 流会	日本経済新聞	2006年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシ医大生「恵の 丘」を訪問	西日本新聞	2006年 8月8日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリで被曝し た医大生「教訓は風化し ない」	朝日新聞	2006年 8月10日	国際ヒバクシャ医療
	平和祈念式典チェルノブ イリ被ばく学生参列	毎日新聞	2006年 8月10日	国際ヒバクシャ医療

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	海を超えてナガサキ思い一つチェルノブイリ被曝4医学生訪問	読売新聞(夕刊)	2006年 8月11日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシから医学生松本市でです市民と語る会	市民タイムス	2006年 8月11日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシ医大生 夢語る	信濃毎日新聞	2006年 8月13日	国際ヒバクシャ医療

○資料収集保存部 資料調査室 (原研情報室)

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
三根真理子・助教授	「被爆60周年記念誌」発行	長崎新聞	2006年 3月28日	旧長崎医科大学の被災状況を証言や写真資料で伝える。
三根真理子・助教授	「環境知を育むー長崎発の環境教育」を出版	長崎新聞	2006年 4月7日	環境教育をテーマに長崎大教授陣が共同執筆し、そのなかで長崎原爆の人体影響や世界のヒバクシャ支援活動を紹介する。
三根真理子・助教授	被爆60周年記念誌「長崎医科大学と原爆」発行	毎日新聞	2006年 4月14日	原研と医学同窓会は60周年記念講演や、原爆被災写真・資料を一冊にまとめる。
三根真理子・助教授	被爆60周年記念誌「長崎医科大学と原爆」発行	西日本新聞	2006年 4月19日	原研と医学同窓会は昨年開催の被爆体験講演会や原爆展の写真や資料などをまとめた記念誌を発行する。
三根真理子・助教授	長崎原爆のカルテを当時の主治医が日本語訳へ	長崎新聞	2006年 8月1日	長崎原爆で大やけどの谷口さんのカルテを当時の主治医が日本語に翻訳したことについてコメントを発表する。
三根真理子・助教授	高齢者の死亡に影響する生活習慣などの要因について分析	Medical Tribune Vol.39, No.49	2006年 12月7日	日本公衆衛生学会で「趣味や運動で高齢者の死亡リスクが低減する」と発表した内容が掲載される。

○資料収集保存部 生体材料保存室（原研試料室）

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
メイルマノフ セリック・助手	カザフスタンに原爆犠牲者慰霊祭を生中継	読賣新聞	2006年 8月10日	長崎大医学部で開かれた原爆犠牲者慰霊祭の様子が、インターネットを使って、同大と医療協力関係を結ぶセミパラチンスク診断センターにて生中継され、ロシア語による同時通訳を行った。
メイルマノフ セリック・助手	核終結式典をネットで中継	毎日新聞	2006年 8月29日	セミパラチンスク核実験終結15周年式典の様子が、長崎大原爆後障害医療研究施設にインターネットで生中継された。両国の出席者が核兵器廃絶に向け連携していくと誓いあった。
メイルマノフ セリック・助手	核廃絶向け連携うたうーセミパラチンスク核実験終結15周年ー ネットで結び長崎でも式典	朝日新聞	2006年 8月30日	式典の様子が、長崎大原爆後障害医療研究施設にインターネットで生中継された。被爆者医療研究や核兵器廃絶に向けて協力していくことを確認した。
メイルマノフ セリック・助手	カザフスタン核実験場閉鎖15周年ー長大医学部 ネットで式典参加	西日本新聞	2006年 8月30日	式典の様子が、長崎大原爆後障害医療研究施設にインターネットで生中継された。核兵器廃絶と平和を願う、高校生1万人署名活動を紹介。
メイルマノフ セリック・助手	セミパラチンスク被ばく者らと式典ー長大医学部がネット中継	長崎新聞	2006年 8月30日	式典の様子が、長崎大原爆後障害医療研究施設にインターネットで生中継された。両国の出席者が核兵器廃絶への思いを新たにした。

○生活習慣病予防診療部

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
川崎英二・助教授	妊娠関連発症1型糖尿病の4分の3は劇症型	メディカルトリビューン	2006年 1月12日	劇症1型糖尿病は急性1型糖尿病に比べ約30倍、妊娠に関連して発症するリスクがあることを報告した。
川崎英二・助教授	特集ED 長崎大学の野口先生と川崎先生が臨床現場を語る	日刊スポーツ	2006年 1月30日	40代で5人に1人、50・60代で約半数を占め背後には生活習慣病の可能性あり
川崎英二・助教授	糖尿病の名称について	弥生	2006年 6月1日	「糖尿病」の名称変更まつわる現状について解説した。
川崎英二・助教授	1型糖尿病患者の食生活とインスリン注射	弥生	2006年 11月1日	1型糖尿病患者における食生活とインスリン注射の関係について解説した。
川崎英二・助教授	1型糖尿病の診断指標について	DITN	2006年 12月5日	1型糖尿病の診断指標について1型糖尿病研究会における発表内容が紹介された。

○国際ヒバクシャ医療センター

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	災害、事故の緊急被ばく医療 長崎大で基礎講座	長崎新聞	2006年 3月19日	緊急被ばく医療
大津留 晶・助教授, 副センター長	長崎61年目の夏「ヒバクシャ医療」世界へ	信濃毎日新聞 (夕刊) その他	2006年 8月9日	被ばく医療
大津留 晶・助教授, 副センター長	「医の心」脈々と長崎から世界へ広がる被ばく医療活動	室蘭民報 その他	2006年 8月9日	被ばく医療
大津留 晶・助教授, 副センター長	13日から韓国で被爆者対象健康相談長崎市と県	長崎新聞	2006年 11月7日	国際被ばく医療協力
大津留 晶・助教授, 副センター長	釜山における在韓被爆者健診	韓国 RNNニュース	2006年 11月14日	国際被ばく医療協力
大津留 晶・助教授, 副センター長	釜山における在韓被爆者健診	韓国 MBCニュース	2006年 11月15日	国際被ばく医療協力
大津留 晶・助教授, 副センター長	原爆被爆者の健康診断, 17日まで釜山浸礼病院で実施	朝鮮日報	2006年 11月15日	国際被ばく医療協力

○離島・へき地医療学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	アイアンマン五島長崎大会	NHK	2006年 5月29日	トライアスロン競技者を対象とした「過酷な運動負荷による生理機能への影響」の研究を行った。
	長崎大学医学生を対象とした離島実習	高知新聞	2006年 7月13日	高知新聞の「医者がいない」シリーズ記事内で離島・へき地医療学講座及び離島での学生実習の取り組みを紹介した。
	第4回家庭医療集中セミナー	長崎新聞	2006年 7月30日	全国の医学生・医師を対象とした家庭医療セミナーを行った。
	第4回家庭医療集中セミナー	テレビ長崎	2006年 8月14日	全国の医学生・医師を対象とした家庭医療セミナーを行った。
	長崎大学医学生を対象とした離島実習	NHK	2006年 10月20日	五島で実施している長崎大学医学部の離島実習で主に地域住民とのふれあいを紹介した。

○へき地病院再生支援・教育機構

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
調 漸・教授	長崎近郊 長崎頭痛市民フォーラム	長崎新聞	2006年 6月6日	頭痛に対する必要性などを訴えた。
調 漸・教授	認知症正しい知識を 長崎物忘れフォーラム	長崎新聞	2006年 7月4日	認知症に関する基礎知識の普及などを 目指し、シンポジウムなどをした。
調 漸・教授	大学病院の撤退が医師不足の引き金に高度な専門化と細分化が医師不足を誘発する	TH.NEXT	2006年 9月	日本の医療の未来像 医師不足は解決するのか
調 漸・教授	へき地医療を考え、体験する夏の企画	JAMIC JOURNAL	2006年 11月1日	大学とはひと味違う医療を味わってほしい